

大型コンクリート製品

記事提供：北陸土木コンクリート製品技術協会

平成29年4～6月期の出荷状況は、前年同期比▲43%で今だ減小の状態が続いている。

出荷量の大部分は、大型ボックスカルバートが約73%で主な出荷先は、新潟県佐渡地域整備部 佐渡縦貫線に出荷された。次いで監査廊が約16%で管外の出荷ではあるが、北海道厚幌ダム・サンルダム、福井県河内川ダム、山口県平瀬ダムに出荷された。他は長尺側溝で、羽越河川国道管内の朝日温海道路、富山河川国道管内の坂東側道舗装工事・小糸道路に出荷された。

大型コンクリート製品出荷量の推移

(単位：%、千)

県名	平成28 年度計	平成29年度					備考
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	累計	
新潟県	+18 4.6	±0 0.3					
富山県	+80 0.9	▲75 0.1					
石川県	±0 0.1	±0 0.0					
3県計	+27 5.6	▲43 0.4					

(注) 大型コンクリート製品とは、大型ボックスカルバート(幅4m高3m以上で分割製作されたもの)、大型擁壁(高さ4～8mでセグレハブ型)、長さ5m以上の長尺側溝類、監査廊、コンクリート舗装版(融雪舗装版を含む)、スノーシェット、スノーシェルターをいう。

加速する業界再編の動き

コンクリート製品業界では、老舗と言われてきた大手メーカーから地域産業的な中小メーカーを問わず、合併や廃業という動きが加速してきている。それらの要因として、公共事業予算の低迷や市場を捉えた製品開発や販売、または新事業への取り組み等の遅れが考えられる。

逆に安定経営を遂げているメーカーもいる。当協会会員社をみると、土木構造物の維持補修工事を手懸けたり、食品や農産物の生産販売、休遊地を利用した太陽光発電など、異業種に着手しながらの努力している会員社も多くなってきている。

今後のインフラ整備や構造物の維持更新が必要となっていて、i-Constructionが進化し構造物のプレキャスト製品がますます活用されること期待します。

北陸土木コンクリート製品技術協会 <http://www.hokudocon.jp>